



## 第3章 計画の基本的な考え方

## 1 基本理念

[ 基本理念 ]

### 子どもが自分らしく安心して 暮らせるまちをみんなで創り出す



本計画は「新・町田市子どもマスタープラン」の後期行動計画として位置付けられることから、「新・町田市子どもマスタープラン」の基本理念である「子どもが自分らしく安心して暮らせるまちをみんなで創り出す」を引続き基本理念として掲げていきます。

子どもは市民の一員であるとともに、将来の社会を担う重要な存在です。すべての子どもが心身ともに健やかに育ち、豊かな社会性を育むことは、子どもの人生を充実させるとともに、将来の社会の安定と発展のためにも必要なことです。

このような考えのもと、「子どもの未来」を重点的に捉え、町田市で育つ子どもの未来が輝かしいものとなるよう、地域も含めて市全体で、子どもと子育て家庭を支援していきます。

## 2 基本的な視点



### 一人ひとりの子どもの権利実現 ●●●●●●●●

子どもはひとりの市民です。子どもも大人と同様に、自分の意見を表明することができます。子どもが人と関わりながら成長できる環境、子どもの意見を発信する場や意見を反映する仕組み等を整えていくことが求められています。また、子どもが「自分らしく安心して暮らせる権利」が守られることが重要であり、そのための支援や体制が大切です。

子どもと大人が相互理解を深めながら、未来を一緒に創っていくという視点が重要です。



## 子どもと保護者がともに成長する

子どもとの関わりを自らの子育てで初めて体験する保護者が多くなっています。子育てには、子どもが成長するときに、保護者も新たな体験を積重ね、ともに成長していく視点が必要です。

子育てスタート期を大切にし、その場だけの助け合いや連携で終わらずに、地域での子育て仲間の形成や地域で支え合える仕組みをつくり、子どもも保護者も地域の人々と一緒に成長することが必要です。



## 地域の中で家庭を孤立させない

子育ての主体は家庭にあります。しかし、家庭の中で解決できない時や行詰まった時に、相談に乗ってもらうことはとても大きな力になるものです。一方で、子育ての考え方や生活様式の多様化などから、子育て家庭と地域との結びつきに難しさを感じる人も多くなっています。

地域社会と家庭との関わり方に視点を当てた地域活動が、柔軟に展開され、子育ての支え合いができる地域社会を創ることが必要です。



## 市民（子どもと大人）と行政の協働を進める

子どもに関わることは、子どもと大人が協働（同じ目的のために、協力してともに働くこと）して取り組んでいくことが必要です。また、市民と行政は、市民ができること、行政がやるべきことを話し合い、お互いに責任をもって事業を創り出していくことが大切です。

子どもと大人が協働することによって当事者の視点が明確になり、それぞれの地域の実情にあった活動の方向性が明らかになります。

### 3 基本目標

基本理念の実現に向け、基本的な視点のもと3つの基本目標を掲げ計画を推進します。

#### 基本目標 I

子どもが健やかに育ち、一人ひとり自分の中に光るものを持っている

#### 基本目標 II

子どもが安らいでいる家庭があり、家庭が地域とつながっている

#### 基本目標 III

子どもが地域の中で大切にされている

## 4 施策の体系 ～子どもにやさしいまちづくり計画～

[ 基本理念 ]

[ 基本的な視点 ]

[ 基本目標 ]

子どもが自分らしく安心して暮らせるまちをみんなで創り出す

一人  
ひとりの  
子どもの  
権利実現

子どもと  
保護者が  
ともに  
成長する

地域の  
中で家庭を  
孤立させ  
ない

市民  
(子どもと  
大人)と  
行政の協働  
を進める

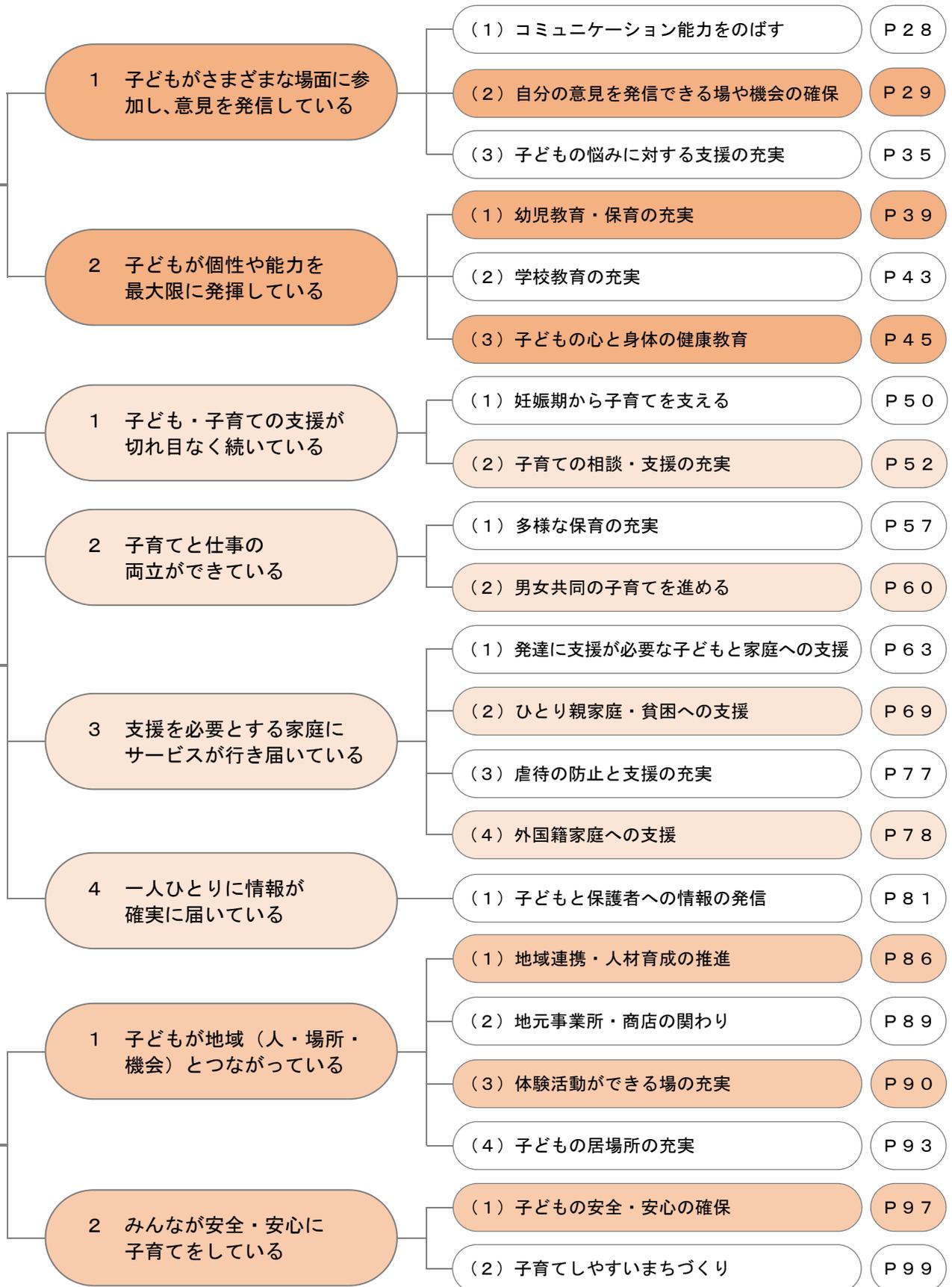
I 子どもが健やかに育ち、  
一人ひとり自分の中に  
光るものを持っている

II 子どもが安らいでいる  
家庭があり、家庭が  
地域とつながっている

III 子どもが地域の中で  
大切にされている

[ 目指す姿 ]

[ 基本施策 ]



## 5 後期行動計画の副題について

後期行動計画の副題は、ユニセフ（国連児童基金）が提唱する「Child Friendly Cities & Communities Initiative : C F C I」を日本語に訳した「子どもにやさしいまちづくり事業」\*を基に、「子どもにやさしいまちづくり計画」としました。

「子どもにやさしいまちづくり」は、子どもの参画が大きな特徴であり、施設整備（ハード面）だけではなく、内容の充実（ソフト面）も必要となります。子どもの施策も両方の面から進める必要があり、この後期行動計画は、その両方の面から事業を取入れて策定をしました。また、「子どもにやさしいまちづくり」のための事業を推進することで、保護者や地域の人にとっても「やさしいまち」を目指していきます。

\* P30コラム「ユニセフ 子どもにやさしいまちづくり事業」に掲載



【え：山崎保育園】